



## Japanese Translation

### PRISMIUM ウェブサイト

#### 4) 当社について

##### 4.1) 歴史

1995年、ロンドンのインペリアルカレッジで、ステファン・ブチ氏はPRISMを使用している患者がわずか5分の説明の後に、複雑な身の上話をしたことを発見しました。

#### 病気の視覚表現と自己評価：PRISM

1990年代の初頭、ステファン・ブチ氏はロンドンのインペリアルカレッジで研究プロジェクトの一環に携わっていました。彼は慢性疾患患者の変化の過程をさらによく理解したいと考えました。そして新しい質問事項とインタビューのテクニックを試験しました。行き詰まったときは、他のアプローチを探しました。彼は突然、人々と彼らの病気の単純な視覚表現を追求することができるというアイデアを思いつきました。最初の患者は、白い背景の上に色付きのディスクという彼の作品に非常に前向きな反応を示しました。

トム・センスキー教授と共同して、病気の自己測定の視覚表現（PRISM）と呼ばれる視覚化ツールのプロトタイプを開発しました。その使用で驚くべきことが発見されました。わずか5分の説明の後、彼のPRISMを使用している患者はすぐに彼らの複雑な人生の身の上話をしました。

それ以来、このツールは研究され、50冊以上の出版物で紹介されてきました。その後も継続して、様々な分野の専門家と共同で洗練し研究されてきました。現在世界中で何百人もの患者は、今までにない方法で考えを収集し、構造化し、伝達することができるようになりました。この方法はとても役立ちました。

#### 1995年のPRISMプロトタイプ